

## 骨折という危機を乗り越えて

初のオリンピック出場を前に試練が待ち構えていた。大会直前に足首を骨折。「チームドクターやトレーナーからのケアやトレーニングを経て、なんとか間に合わすことができた」とのこと。一時は大会出場自体が危ぶまれたそうだが、結果的には5試合中3試合への出場を果たし、アイスホッケー女子日本代表として初の6位入賞に貢献しました。

## 2戦目では先制点をアシスト

初戦となるスウェーデン戦から出場するも長い時間のプレーとはならなかった。そのことについて「緊張の影響か本来のプレーができていなかったから」と試合終了後、飯塚祐司ヘッドコーチから伝えられたという。

第2戦目のデンマーク戦でも出場を果たし、先制点をアシストするなどのプレー（左下：写真）を披露した。この時のプレーについては「いつも通りのプレーができたと思う」と話しつつ、怪我からの回復を振り返って「安平町の皆さんが応援してくれていることは聞いていた。そういう応援が力になった」と感謝の言葉も合わせて話していました。



## 緊張感と充実した時間

田中副町長からは、三浦選手が来庁時に日の丸が施されたブレザーを着用していたこともあり、「日の丸を背負ってのプレーについてはどうだったか？」と質問が投げかけられた。それについては、「国を代表してプレーするというのは緊張や責任感を感じた。そういうものを感じたけれど、日本代表としてプレーすることを楽しむことができたのは良かった」と話しつつ、北京オリンピック後については、「一度しっかりと休んで、次の目標を定めていきたい」と話してくれました。

三浦選手から  
町内の  
子どもたちに

たくさんの応援ありがとうございました。  
また安平町から、オリンピックに出場する人が出てくるのを楽しみにしています！